

■令和3年度第1回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

・日時：令和4年2月16日(水)10:30～12:00

・場所：ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間

◆出席者：◎山下 郁夫（県体育協会副会長）

○橋爪 静夫（学識経験者）

太田 謙二（県小学校体育連絡協議会会長）

神谷 禎之（県中学校体育連盟会長）

雑賀 敏浩（県高等学校体育連盟会長）

阪本 憲二（障害者スポーツ代表）

筋師 光博（県スポーツ推進委員協議会会長）

角谷 正文（学識経験者）

田村 光穂（和歌山県スポーツ振興財団常務理事）

坂東 あつみ（女性スポーツ代表）

三井 利仁（学識経験者）

南 由佳（学識経験者）

本松 大策（県PTA連合会副会長）

森下 順子（学識経験者）

※◎会長、○副会長

◆事務局： 宮崎教育長

橘生涯学習局長

吉富スポーツ課長

川口スポーツ課プロジェクト推進室長

上野スポーツ課副課長

安井スポーツ課副課長

橋爪スポーツ課企画振興班長

渡辺スポーツ課生涯スポーツ班長

相谷スポーツ課競技力向上推進班長

阪部スポーツ課プロジェクト推進室専門員

深野県立学校教育課長

玉出県立学校教育課指導主事

中井義務教育課副課長

橋爪義務教育課指導主事

下村障害福祉課主幹

◆概要

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議題

(1) 令和4年度におけるスポーツ団体に対する補助（案）について

～資料第1－1、2号により事務局が説明～

〔質疑応答等なし〕

(2) 令和4年度における本県スポーツ振興の取組について

・令和4年度和歌山県生涯スポーツ振興基本方針（案）について

～資料第2－1号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

総合型地域スポーツクラブ等の育成について、日本スポーツ協会より、1 中学校に対して 1 クラブの総合型地域スポーツクラブと 2 スポーツ少年団を連携させていくという方針と聞いた。

県は総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団を別々に育成していく方針か。

(事務局)

別々というわけではない。

スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブが連携していけるよう進めていく。

(委員)

お願いも入るが、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団が連携をとれる仕組みがあれば、総合型地域スポーツクラブ側は指導者に巡り合えるメリットがあるし、スポーツ少年団側はマネジメントしてもらえるとというメリットがあると感じている。

そういう連携の事業があれば、ありがたい。

(委員)

今の意見は大変いい意見であるが、基本的には難しいところもある。

総合型地域スポーツクラブの基本的な最初の発想は、テレビゲームなどをしている子供たちがいろいろなスポーツの経験を積み、体力向上を図ろうという一つの考え方があった。

子供たちの人口は減っているが、連携させていくことにより総合型地域スポーツクラブの活性化にも繋がると思う。

もう一つは私の意見である。

総合型地域スポーツクラブは生まれて 20 数年経ち、マンネリ化している。30 市町村に総合型地域スポーツクラブができたが、マンネリ化している部分は考え直す時期がきている。事務局でも検討していただきたいと思う。

(委員)

今後、検討していただきたいことについて。

予算について、トップアスリート育成に予算がたくさん取られているが、トップアスリートを育てようと思うなら小学生からでは遅い。乳幼児期からも、スポーツをする機会が必要である。

和歌山は自然が豊かであるので、体を使って遊べるような環境も大事であると思う。

私は、兵庫県の日本スケート連盟の審判員をしているが、個人スポーツは、小学生からでは遅い。乳幼児期にも、今後、体を動かすような機会を作っていただきたい。

(委員)

今の意見で、何か参考になるような情報はるか。

(委員)

和北総合クラブ（総合型地域スポーツクラブ）では、体操競技の田中三兄弟の父である田中章二さんが関わり、和歌山北高校西校舎で小学生、中学生、高校生が同じ場所で練習をしている。

田中章二さんから「体操で、ものになるには 10 年かかる。高等学校で活躍するには入学前から体操に親しんでいくことが必要。」と伺った。田中三兄弟のような素晴らしい選手を育成するように目指している。

もう一つはレスリング競技である。これも小、中、高の三世代が一緒になって練習をしている。

両方とも比較的小さい所帯で、専門的な指導者がたくさんいらっしゃるので、両クラブは成績をしっかりと上げている。メジャースポーツになると一つに集まるのは難しいと思うが、競技人口が少なく、縦割りで練習できる場所は、本校も進めていきたいと考えている。

(事務局)

県でも、日本スポーツ協会のアクティブチャイルドプログラムを、スポーツ少年団を中心にしている。今後も指導者育成や普及も進めていきたいと思う。

## (2) 令和 4 年度における本県スポーツ振興の取組について

- ・令和 4 年度和歌山県競技力向上対策基本方針（案）について

～資料第 2 - 2 号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

スポーツ医・科学サポートの充実について。

スポーツはメンタルトレーナーが必要であると思うが、和歌山県では、メンタルトレーナーは取り入れられているのか。

(事務局)

医大のげんき開発研究所と提携し、メンタルサポートをしていただいている。

県の強化対象選手、国体に向けた対象選手について、サポートできる体制は整えている。

#### 4 報告事項

##### (1) 和歌山県スポーツ推進計画の進捗状況について

～資料第3号により事務局が説明～

〔質疑応答等なし〕

##### (2) スポーツ生活に関するアンケートの結果報告について

～資料第4-1号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

運動・スポーツを実施しない人の阻害要因について。

毎回、アンケート結果で「仕事や家事、育児が忙しい」と挙がっていると思うが、働き世代の施策はどのように考えているか。

(事務局)

働き世代のスポーツ実施については、前回の調査からも課題である。

働き世代が運動、スポーツをするのは難しいが、県としても現在実施しているラジオ体操などの取組をはじめ、日常で運動ができる取組をしていきたいと思っている。

また、コロナ禍でテレワークが進み、働く人たちも実施率が少し上がっているところもある。

アンケートで、「どんなことを行政に求めるか」という項目では、大会等が第一番に入っているので、リレーマラソン、パンダRUNを今後も盛り上げていきたいと思う。

(委員)

それでは、週3回以上や週1回以上の運動習慣の定着にはなりにくい可能性もあると思う。そのあたりは、来年度に向けて考えていただきたい。

和歌山市の調査でも、「忙しい」が一番に上がっている。その世代の問題解決をすることが、

乳幼児期の運動習慣を上げていくことにも繋がると思う。また、30代40代50代あたりの運動実施率を上げることが、競技力向上にも繋がると感じている。

(委員)

和歌山県民のスポーツ実施率を考える上では、和歌山県スポーツ推進計画がベースになっている。

県民の成人男女のスポーツ実施率は「週1回以上65%」を目指している。

これは国のスポーツ基本計画をベースにしていて、国の数値目標の65%は随分高い。それを参考に65%にしているが現在52.2%まで上がっていることは非常に成果が上がっていると言える。

その背景には、2015年の国体や全国障害者スポーツ大会、ねんりんピックがあり、県民のスポーツに対する意識が高まってきていることが要因となっている。

次のスポーツ推進計画の見直しの目標を65%にするには、色々な仕掛けが必要であると思う。2020年の東京オリンピック・パラリンピック、今の北京オリンピック、ついでワールドマスターズゲームズがある。こういったビッグイベントをうまく活用しながら、それと関連して事業を推進する。そういった中で県民のスポーツ意識を高めていくことが必要である。

何か仕掛けがなければ、このままずっと推移していくと思う。

県や競技団体、あるいはスポーツ組織団体にしても、事業は実施していこうとしているので、それを積極的に誘致していく必要がある。

ベースとなるべき、動機となるべき、啓発すべきとなるべき、そういう仕掛けを機会あるごとに考えていただけたら、ありがたい。

そうしないと、県スポーツ推進計画の見直しをする時に、次の目処が立たないことになる。

県民に対する動機付けも考えていただけたら、非常にありがたい。要望である。

(委員)

和歌山県スポーツ振興財団では、健保協会とリンクしながら企業を訪問して健康づくりの体操教室や様々な支援活動を行っている。

先般のパンダRUNをスタンドで拝見したが、すごく楽しそうに参加している。職場という土壌で参加しているところが結構あったと感じた。

県でも、職員の福利厚生を含めてスポーツ健康づくりを推進する企業を積極的に、評価、表彰するのがよい。単なる健康づくりではなく、スポーツの推進、振興に積極的に企業が取り組んでいくという土壌を県が支援することも、働き世代のスポーツ参加率の向上にも、大きく寄与できるチャンスになる。企業へのアプローチを考えられないか、検討していただきたいと思う。

### (3) 東京オリンピック・パラリンピック関連事業等について

#### 本県関係選手の競技結果について

～資料第5－1号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

スケートボードは、県体育協会に加盟しているのか。

(事務局)

加盟している。

(委員)

県体育協会に入れば、補助金も出るし、応援もする。

四十住さんは、苦労して練習をしながら金メダルを獲得したことは立派なことであるし、民間の会社である酒屋さんが酒蔵を提供して練習場を作ったのは、大変ありがたいことである。

我々はそれを認識することが必要であるし、また、トップアスリートが和歌山県に埋もれていることも認識する必要がある。

金メダルの獲得により、県内でスケートボード競技がさらに盛んになる。

こういう新しいスポーツについて、見落としがないようにしていかなければならないと感じている。

(委員)

オリンピック・パラリンピックに関して。

中之島小学校が体育の研究をしている関係であると思うが、12月の始めに岐阜県の車椅子バスケットの秋田選手が本校へ来てくれ、5、6年生を対象に、体験教室と講演をしていただいた。

子供たちは、車椅子に乗ってバスケットをするというのは初めての経験であり、難しさを感じているようだった。しかし、難しいからこそ楽しいと思えているとも感じられた。自分たちが経験することで、秋田選手のプレーにすごく憧れを持った。また、パラリンピックで銀メダルを獲得に至る過程の話を聞き、並々ならぬ努力があつての快挙というあたりも、すごく勉強になった。

本県選手が、小学校、中学校、高校へ行き、プレーや話をしていただけると、意識も大きく変わると思う。

(委員)

和歌山北高校の生徒は、バーレーンで12月に行われたアジアユースパラの陸上で銅メダルを獲得した。

この生徒は、左肘より先がないという障害を持っているが、ベスト4に入るような実力の男子バスケットボールチームのキャプテンをしている。

国の代表として出ることがわかり、学校をあげて応援するということになった。

このパラの有望な選手は、バスケットをしているけれども、陸上でも世界に通用する。  
パラリンピックで活躍できる逸材かなと思うので、今後、進学や社会人となった時には、パラ  
スポーツの支援を県でしていただきたいと思う。

- (3) 東京オリンピック・パラリンピック関連事業等について  
東京オリンピック聖火リレー・パラリンピック聖火フェスティバル  
東京オリンピック競技大会事前キャンプ  
～資料第5-2号、資料第5-3号により事務局が説明～  
〔質疑応答等なし〕

- (4) トップレベルチームによる県内スポーツキャンプについて  
～資料第6号により事務局が説明～  
〔質疑応答等〕

(委員)  
キャンプについても随分定着してきたのか。

(事務局)  
はい。ラグビー及びサッカーという屋外の競技が全体を占めているが、今後は色々な室内競  
技の誘致等に向けても進めていきたいと考えている。

(委員)  
引き続き、よろしく願います。  
経済効果もあるかと思う。

(事務局)  
今年については、コロナ感染症の影響で交流ができなかったが、今後、交流も含めて色々な経  
済効果を求めてしていきたい。

- (5) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について  
～資料第7号により事務局が説明～  
〔質疑応答等〕

(委員)  
体育の研究指定を30年ぐらいしている中之島小学校の取組について。  
やはり運動嫌いでは、長続きしない、そのあとに繋がらないので、全職員が体育の研究事業を

して、子供が運動の楽しさを味わうことができるようにすることやこの学習で何を学びとらせるのかを大事にしている。

もちろん体力を上げる取組はしているが、やはり、遊びの場へ出ていくことが大事であると思っている。取組を進めている効果で、休み時間は運動場へ出る子がほとんどである。

運動場には、いろいろな仕掛けをしている。ストラックアウトのシートを張ったり、すぐに一輪車を出せる、竹馬がすぐに使えるなど、そういうものに誘発され、すぐに手が出て遊べるという状況にある。

それが体力の向上に繋がっているとは言いきれないが、90 数%の子供が「体育の授業が待ち遠しい、楽しい」というアンケート結果も出ているように、将来的にも「体を動かすって楽しい」、「スポーツって楽しい」と感じることに繋がると思われ、喜ばしいことであると思う。

#### (6) 全国高等学校総合体育大会及びヨット競技大会について

～資料第8-1号、資料第8-2号、資料第8-3号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

スポーツ推進計画の目標は達成していないということか。

(事務局)

はい。目標は50種目であり、もう少しであるので、これからもしっかりと強化していきたい。

#### (7) 「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西について」

～資料第9号により事務局が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

最終的には2026年ということである。

2025年是大阪万博があり、海外や国内の皆さんが関西へお越しになる。そのムードを引き継いで、2026年ワールドマスターズゲームズがあり、関西が脚光を浴びる時期である。このチャンスを生かして、盛り上げていきたいと考えている。

広域連合の連合長も関西ワールドマスターズゲームズの会長も仁坂知事がしている。そういう意味で、和歌山県も一生懸命頑張って応援したいと思う。

## 5 閉会